

◎ ファミリーバドミントン

- ・ サービス時の審判の役割に関して
 - ⇒副審はサービス側のサービスラインを確認した後、直ちにネットまで戻る。
 - ⇒レシーバー側の線審はバックラインのセンターライン延長上に移動する。
 - ⇒線審は、サービスのイン・アウトとラインクロスをジャッジする。
 - ⇒主審と副審で、線審の位置確認を指示する。

- ・ ラインクロスについて
 - ⇒各審判が協力してジャッジを行う。

- ・ サービス時の前衛の立ち位置について
 - ⇒競技規則 P2 上図のとおりの対応とする。

- ・ コロナ対策について
 - ⇒試合開始前・終了後の整列は、十分に間隔を取って行う。
 - ⇒各チームのキャプテンは、主審に一番近い場所に整列してもらう。
 - ⇒ラケットの消毒は、試合終了後にチームごとに実施する。

第 32 回浜松市民レクリエーション・スポーツ大会審判講習会 確認事項

◎ スーパードッジ

- ・ はちまきの取扱いについて
 - ⇒大会要項 19.にある「使用するはちまき」に関して、コロナウィルス対策のため、会場準備品を使用せず、選手自身ではちまきを管理、繰り返し使用する。他のチームと同色となる場合があり、可能ならチームで2種類準備する。できない場合は、アリーナのものを使用する。(使用方法は同じ)
 - ⇒ヒットの場合は、はちまきは審判に渡さず選手自身のポケットに入れ管理する。プレーに支障がないように、速やかに行う(審判は収納を確認し、笛を使用)
- ・ コロナ対策について
 - ⇒試合開始終了の挨拶は距離をとって実施
 - 用具の消毒は試合後のたび、フロアの消毒は休憩時に、審判側で実施する。
 - 握手やマスクの取扱いについては、決勝大会参加チームに改めて連絡する。
- ・ 5秒ルールの徹底
 - ⇒5秒たった際は相手ボールになるが、見落としがちなので注意する。
- ・ ヒットの確認
 - ⇒ボールがヒットした後、続けて頭にボールがあたった場合は『ヒット』となる。
- ・ 審判の確認事項
 - ⇒センターラインのラインクロスなど、『主審と副審』がそれぞれに確認するなど、近くにいる審判で協力して確認する。
 - ⇒『主審』はチームからタイムの依頼を受けたら、大きなジェスチャーで他の審判にシグナルを送る。他の審判が気づくように、声でも知らせる。主審が依頼に気づかない場合は、他の審判が主審に伝える。また選手交代では、時間を止める。
 - ⇒投球がパスかアタックかどうか分かるよう、『副審』が常時指で数える。パスが続けて5回目の判定となれば、ボールの権利は相手ボールとなる。また、パスかアタックかの判断は、ボールの勢いや狙い方等で『主審と副審』が判断する。
 - ⇒試合終了の合図は、『主審』が1連のプレーが終わったことを確認し笛を吹く。
 - ⇒『主審』は、ヒットされた選手が速やかにはちまきをポケットにしまい、ポジションに位置したことを確認して笛を吹く。
 - ⇒ジャンプボールは、少し高めにあげてほしい。
- ・ 内野同士のボールの手渡しについて
 - ⇒内野内で味方同士ボールを手渡しすることも、パス1回とカウントする。

◎ ビーチボール

- ・ サーブについて
 - ⇒サーブを打つ時に、トスを上げたボールに回転を与えてはいけない。ボール本体の打つ場所は、中心部でなくても良い。
 - ⇒サーバーは、ネットに対して足を平行にして構え、一歩踏み出してサーブを打っても良い。(後ろ足は浮かさない)

- ・ 競技規則 P13_⑦インターフェアについて
 - ⇒「相手側にプレーを妨害していなければ反則にならない」の部分を削除する。

- ・ 隣接コートにボールが入ってしまった場合について
 - ⇒隣接コートにボールを入れてしまった場合、アウト・オブ・バウンズとなる。
 - ⇒隣接コートからボールが入ったことによりプレーに支障が出る場合は、ノーカウントとし、プレーをやり直しする。

- ・ 線審について
 - ⇒選手やボールの動きに合わせて自身も移動し、ボールやラインを見極める。